

蔵元と酒屋、そして皆さんのお力添えがあるからこそ、日本酒文化は継承されます。

だから池月

鳥屋酒造と池月 能登のちっちゃな酒蔵

清酒「池月」の醸造元鳥屋酒造は、創業大正八年（一九一九年）、七尾と羽咋を結ぶ西往来に沿いに位置しています。かれこれ百年近くも、地元の皆様に愛されてきた酒蔵です。

「お客様からは、『池月って池の水面に月が浮かんでいるイメージで綺麗な名前ですね』と言われるんですが、実は名馬の名前からきているんです」と社長さん。



昔、宇治川の先陣争いで活躍したと言われる名馬・池月は、能登島の牧山産であり、源頼朝公が愛でた馬だったそうです。酒蔵のますますの飛躍を期して、この名馬から名前を頂いて「池月」という銘柄になったのだそうです。

金沢国税局 新酒鑑評会

「優等賞」受賞!

昨年に引き続き今年も、我らの「池月」が「優等賞」を受賞。これもひとえに皆様のご声援の賜物、本当にありがとうございます。

酒一筋60年



川合喜好氏 鳥屋酒造社長

「うちの酒は辛口なんですよ、でも、辛く感じない。これは、仕込み水のせいですね。そうかといって淡麗かというと、そうでもない。これが、うち（池月）の特徴の一つかもしれない」。鳥屋酒造の社長、川合喜好氏はこう言われます。「池月」の仕込み水に使用される地下水は超軟水、基本に忠実な造りは、程よい旨みを持たせたお酒と

今の「池月」は、故・西本久孝氏（おさげやさん西本）と、川合社長（鳥屋酒造）の出会いから生まれました。

西本氏は蔵訪問の際に、タンクに眠っていた酒の酒質と、川合社長の実直な人柄に惚れ込みました。同じように、西本氏の日本酒を愛する情熱と姿勢に惚れ込んだ川合社長。意気投合した両氏の夢を乗せたタンク1本の酒に、「みなも」つかぶ月」と命名しました。これが、新生「池月」の始まりの酒

みなも誕生秘話

となりました。そんな二人の後姿に憧れた酒販店たちがいます。西本氏が夢見ていたであろう境地には、まだまだ遠く及びませんが、この仲間たちは、皆様とともに「池月」を応援していくことで、西本氏の夢を引き継ぐこととしていきます。たかが1本の酒から始まった「池月」の物語ですが、皆様の有難い応援を受けながら、今後も大きな夢に向かって歩んでいきます。

池月の銘酒

普通酒



本醸造



純米酒



吟醸みなもつかぶ月



一青（ひとこ）



純米大吟醸



大吟醸



うすにごり



500ml

私と池月 石黒 格 氏



金沢市柿木島
「いたる本店」店主

四月吉日、犀川河川敷にて、「いたる」主催のお花見が行われました。満開の桜の下、とても心地の良いお天気にも恵

まれ老若男女、約二百名の方が参加していました。そこで、いたるさんと、石黒格さんに、池月を片手にお話を伺うこと

ができました。数ある北陸の銘酒を知る、いたるさんは、池月をこのように感じているそうです。

池月は「このままがいい」「このままがいい」

ふとした時に呑む池月にこそ、池月らしさを感じます。呑んでホッとのお酒。料理と喧嘩しない純粹なお酒。こんな池月が、このまま続いてほしい。

十五年近く、池月純米酒を愛飲して頂いているいたるさんが語るこの一言は、蔵元冥利につきる言葉であり、我々酒屋も、

池月を皆様にご紹介できた喜びが湧き上がってきます。さりげない池月の良さを感じて頂ければ幸いです。

今宵はあなたも、「池月」で、ホッとしたいひとときを過ごしてみませんか。

日本酒豆知識①

能登杜氏とは、能登半島の先端付近、珠洲市や内灘(現・能登町)を発祥地とし、日本の代表的な杜氏集団の一つです。技術集団としての発祥は江戸時代後期と伝えられ、能登衆と呼ばれ他地域とは異なる、独自の酒造技術を伝承していった。それは「能登流」と称され、味わいの濃い酒

「能登はやなぎや土までも」

になった背景には、氣候風土や食環境はもちろん、蔵元共々とのたゆまぬ努力がありまして。「能登はやなぎや

合には七四人の杜氏と二三〇人の蔵人が在籍しています(石川新情報書府参照)。われら「池月」の柳

土までも」といわれるように、純粹で粘り強い能登の人情が酒にも表れているように思われます。現在(平成二四年)、能登杜氏組

に育まれた「心を癒す」温かさが感じられます。

矢健清(やなぎやけんせい)杜氏は、40年以上の酒造りと四半世紀の杜氏経験をもつ、能登でも屈指の匠です。機械を入れず昔ながらの環境のなか、柳矢杜氏の手で造られる「池月」には、長年の経験



水掛け神輿



蔵見学バスツアー

池月応援団恒例行事

- 春・・・蔵見学 バスツアー
- 夏 柿木島 水掛け神輿
- 秋・・・池月「秋の宴」



2013年度 池月「秋の宴」
石川/富山/福井にて開催

編集後記

いつも「池月」並びに鳥屋酒造、また当店を気にかけて頂き、誠にありがとうございます。蔵元共々、深く御礼申し上げます。

さてこの度、池月通信なるものを発刊することにしました。この情報誌が、少しでも皆様と「池月」、また日本酒との橋渡しになれば、幸いです。文章では伝わりにくいことも多々あります。今まで通りお気軽にお声をかけて頂き、ご質問・ご意見・ご感想など投げ掛けていただければ、この上なく嬉しい限りです。素人の手造りで、つたないものですが、宜しければこれからも「臆」に...